



はじめに

第16回あの森を訪ねては、逗子市の「神武寺の森」を訪ねながら、周辺の寺院などで地域の歴史を感じ、最後に池子遺跡群資料館によって、弥生時代の木製品をみて当時の森に思いをはせる。

コースは、[JR 東逗子駅～海宝院～沼間参道～神武寺（薬師堂）～裏参道～京急神武寺駅～東昌寺～池子遺跡群資料館～池子十字路バス停](#)→バス→[JR 逗子駅](#)

距離は約6 km。標高差70 mほどの上り下りがある。

探訪地概要

森は田越川とその支流の池子川、そして横浜市境の稜線に挟まれた地域。中には大きな住宅地もある。

田越川沿いにはJR横須賀線が、そして、池子川沿いには京急逗子線が通りアクセスの良い所である。

池子川を挟んで、対岸には米軍提供地の広大な森林がある。

森の中心ともいべき神武寺へ行くには、表参道、裏参道、沼間参道の3つのルートがある。

沼間参道を上り、裏参道を下る。

沼間地区

横須賀線東逗子駅裏の道に行く。

この道は、かつての沼間村のメインストリート。寺の前を通るので「寺道」とも呼ばれていた。

そして、山を越して行けば長浦湾がすぐそこで、三浦半島を横断

する最短距離の道。そのため、田越川の船着き場で荷揚げされた物資が馬の背で山を越し、再び海路で江戸に運ばれたとも。

今は静かな通りである。

山裾に点在する寺院に立ち寄りながら沼間参道を目指す。

海宝院

神武寺の森を背景にした大きな寺。茅葺の四脚門が威厳を示す。



寺は、この地方が小田原北条の支配から徳川家康支配に代った時代官頭として統治し、発展につくした長谷川長綱を開基とする。長綱一族の墓が裏山にある。

寺を出て光照寺の前を過ぎ、付近に源義朝の別邸があった所といわれている法勝寺の手前から「沼間参道」へつづく道に入る。

沼間参道

法勝寺のそばに幼稚園がある。

子供達のはずむ声に元気をもらいながら上り道に向かう。

住宅が谷の奥まで続く。右手の山はスギ林で保安林に指定されており、治山工事も行われている。

住宅が切れると「沼間参道」。

急勾配の自動車道となっている。左手の谷筋にはスギの林が広がる。

寺に近づくにつれて、昔植えられたスギが巨木となって点在し、自然林に近い林相となっている。

急坂に息を切らせながら上ること、およそ15分で神武寺のある尾根の広場につく。

神武寺

寺は、山岳信仰の霊場であった地に、奈良時代に創建されたという古刹。新編相模風土記稿には「医王山来迎院と号す。天台宗。境内総て石山なり。その山間を穿ち平らげて堂宇を建つ。山麓に総門あり。本堂に至る迄凡五町其道屈曲して甚だ険阻なり・・・」とある。

客殿への通路は岩山を掘りさげて造ってある。難儀な工事だ。

本堂はもう少し上った所にある「薬師堂」。室町時代末期の建築様式を残す建物として、県の重要文化財に指定されている。境内には「なんじゃもんじゃ」の木や杉の大木、菩提樹などの木もある。

薬師堂わきの石畳の山道を行



くと鷹取山を通り追浜方面にでる。
神武寺鷹取山ハイキングコースとして整備されている。



神武寺の森

森は「かながわの美林50選」地。常緑広葉樹林に区分される。スタジイやアカガシを主林木とし、マキ、シロダモ、ヤブツバキ、ヒサカキ、トベラ、アオキ、ヤブコウジなどがみられ、コナラやケヤキなどの落葉樹が混じる所もある。

杉の植林地が谷筋を中心として思った以上にある。先人の山を活かしたいという思いが伝わってくる。しかし、残念だが現実には悲観的といわざるうえない状況だ。



この山の地質は池子火砕岩質砂岩層。水を含みやすく、崖面などの苔の中にシダ植物などが生育しており「岩隙植物群落」として、市の天然記念物指定を受けている。

裏参道を下る

薬師堂から下の広場に戻り、麓から山の上へ上げられた総門を出て、道路標識にしたがい、京急神武寺駅方面への「裏参道」を下る。

岩を削った階段をおり、谷を流

れる水と一緒に露出した岩の道を慎重に下る。足元に気を取られて、周囲を見ながら歩くのが難しい。

所々で休み、山の霊気を浴びながら木々のざわめきに耳を澄ます。

深山の雰囲気もあり心地よい。

しばらく下ると谷底の道から山腹の道となる。岩を削り道としたところもある。時々、ハイカーとすれ違う。



途中に池子石の石切り場跡がある。ここの石は軟らかだが火に強く安価であったこともあり、建築資材などとして、明治の中頃から大正にかけて盛んに切り出された。

しかし、セメントの普及や関東大震災の影響などにより衰退した。

逗子中学校を過ぎると、ほどなく県道。左方向が京急「神武寺駅」。

時間のない人や歩き疲れた人は、ここで帰ることもできる。

そのまま先へ進み、東昌寺で2つの歴史物を見る。

1つは、鎌倉時代末期の御家人の墓と伝えられる国指定重要文化財の五輪塔。小ぶりだが姿よい。



そして、2つ目は、高さ2, 6mの木造阿弥陀如来坐像。阿弥陀堂のガラス窓越しにのぞくと白い玉眼がぎょろろと見おろしている。

池子遺跡群資料館

池子十字路から、「池子の森自然公園」内にある池子遺跡群資料館に向かう。右手に広がる森は、「米軍池子住宅地区及び海軍補助施設」。旧日本帝国海軍の弾薬庫として接収された地域を、戦後にアメリカ軍提供地としたもの。面積は288haと広大だ。

住宅の建設に先立ち、発掘調査が行われ、弥生時代から近現代までの遺跡や遺物がでてきた。

資料館の3階にある展示室で各時代の出土品を見ることができる。



注目は、弥生時代の河道から出土した加工途上のものも含む多数の木製農具など。これらは質・量とも県内最大規模とのこと。

鍬や斧、機織りの道具が展示されている。使っている材で2千年前の弥生の森に生えていた木がわかるはず。みると、種類はヒサカキ、アカガシ、イヌカヤ、モッコク、ケヤキで、一番多く使われているのがアカガシ。

今もその辺にある木ばかりだ。

弥生の森は、今の森と変わりがなかったようだ。

静岡県の登呂遺跡の水田跡で出土した木製品はスギ材が多かったと聞いている。スギは加工しやすい木だ。当時、この付近にスギの木はなかったのだろうかという疑問がわいてくる。

これから、そのあたりのことを調べてみることにして帰路につく。

(2018, 10 瀧澤 弘)